

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 21 日現在

機関番号：13903

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520617

研究課題名（和文）東海圏の3工業大学ネットワークによる初年次英語教育システム TEEE の開発

研究課題名（英文）TEEE: A New English Education System for First Year Students at Institutes of Technology in Tokai

研究代表者

石川 有香 (ISHIKAWA Yuka)

名古屋工業大学・工学研究科・教授

研究者番号：40341226

研究成果の概要（和文）：本研究は、東海圏の工業大学の初年次学生を対象とした英語教育システム TEEE (Tokai English Education for Engineering Students) の開発を目的とする。東海圏の英語教員によるネットワークを作成し、現在の ESP 教育の問題点を明らかにし、開発した新しい教育方法と教材を実施する。研究の結果、工業大学の初年次学生は、工学や英語の知識は乏しいが、概して工学への強い学習動機が備わっているため、TEEE による ESP 教育は効果的である可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The aim of the research is to develop a new English education system for first year students majoring in engineering at institutes of technology in the Tokai area. We created an English teachers' network for TEEE (Tokai English Education for Engineering Students), in order to clarify current problems, to develop a new methodology, and to apply it to our students. Results of the study suggested that teaching ESP (English for Specific Purposes) through the TEEE system can be effective not only for graduate students but also for first year students, since students are generally highly motivated to study science and engineering although their technical and English knowledge is very limited.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育一般・初年次英語教育・ESP

1. 研究開始当初の背景

従来の大学における ESP 教育の研究は、主に、学部上級生や院生を対象として行われてきた。TEEE (Tokai English Education for Engineering Students) は、これまで、ほとんど目を向けられることのなかった、初年次

学生を対象とした ESP 教育に関する研究である。

2. 研究の目的

本研究は、東海圏の工業大学を中心とした工業大学生のための新しい初年次英語教育

システム (TEEE) 開発を目的とする。

FYE (First Year Experience) 研究では、いわゆるリメディアル教育や補習教育とは一線を画し、学生が、大学における専門分野での学習活動・研究活動を円滑に行えるように、高校教育と大学教育とのギャップを埋めて、学習活動の準備を行うことが主眼となっている。

TEEE は、従来の ESP 教育への橋渡しとして、高校既習内容の効果的復習を組み込んだ工学基礎英語教材を含め、工学技術者として必要な英語力育成のための基礎教育システムの開発を目指す。

3. 研究の方法

まず、名古屋工業大学・大同工業大学・豊田工業大学の3大学の英語教員が研究チームに加わり、近隣大学・高校・企業および内外の工業系大学などの助言を得て、工業大学における ESP 教育のあり方を明らかにし、ついで、初年次の英語教育における教育目標を検討する。さらに、初年次教育の観点から、教材における言語材料とその提示方法のあり方、題材の組み方を見直すとともに、評価方法の検討を行う。

4. 研究成果

2010年度は、大学における ESP 教育の研究、英語テキスト分析とジャンル研究、初年次教育研究を行った。また、TEEE ネットワークづくりを行い、年度末には、名古屋工業大学・大同工業大学・豊田工業大学・豊橋科学技術大学の英語教員が参加して、「工業大学における英語教育の展望」と題したシンポジウムを開催した。武庫川女子大学と東京工業大学における先進的英語教育の実践報告を受け、名古屋大学や会津大学、愛知工科大学などの教員、その他教育機関関係者、および、企業における人材育成の関係者からも助言を得て、東海圏の工学部における英語教育の現状を確認し、課題の洗い出しを行った。

2011年度は、前年度の研究結果に基づいて、初年次教育用 ESP 教材のあり方を検討した。語彙教材においては、石川 (2006) の手法を敷衍して、コーパスに基づいた教材作成を行い (Ishikawa, 2011)、さらに、名古屋工業大学において教材の施行および ESP 語彙学習のための「学びの場」の構築を行った。

2012年度には、英語力評価に関する研究を行うと同時に、上記研究実施の際に得られたデータの分析を行い、教材に改良を加えている。さらに、改良を加えた教材を用いて、TEEE ネットワークを通して、豊田工業大学と名古屋工業大学で教材の試用と語彙力測定を行った。語彙学習参加者は前年度よりも増加し、また、語彙力測定評価においても、正答率が伸びた。本研究によって作成された

教材の一部は、インターネット上に公開している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計12件)

- ① 石川有香他共著、「多文化共生社会における英語教育と言語アセスメント」『JACE 中部支部紀要』、査読有、2010年12月、8号、pp.33-50.
- ② 石川有香「工業大学における初年次生対象の共通英語カリキュラム改革—評価と検証—」『中部地区英語教育学会 紀要』、査読有、2011年1月、40号、pp.223-230.
- ③ Yuka Ishikawa. "A corpus-based study on images of family members." *Themes in Science and Technology Education: Special Issue on ICT in language learning*. 査読有、2011年2月、3(1-2)、207-221.
- ④ 石川有香「名工大における英語教育の現状と課題：『科学技術英語』指導を通じた英語教育」『工業大学における英語教育の展望—東海圏からの発信—』、査読無、2011年3月23日、pp.6-11.
- ⑤ Yuka Ishikawa. "A Corpus-based Research on Thanks in British Dialogue." *International Conference on Languages, Literature and Linguistics*. 査読有、2011年12月、pp.384-389.
- ⑥ 石川有香・小山由紀江「大学初年次学生の工学系準専門語彙の理解度」『中部地区英語教育学会 紀要』、査読有、2012年3月、第41号、pp.257-264.
- ⑦ 石川有香「話し手の属性と thank you および thanks の使用頻度」『統計数理研究所共同研究レポート 280 計量的テキスト分析のための統計手法の研究』(統計数理研究所)、査読無、2012年3月、pp.1-8.
- ⑧ 石川有香他共著「名工大英単語コンテストの開発と実施—工大生の連携を求めて—」『工学英語教育研究』、査読無、2013年03月、第1巻、pp.49-58.
- ⑨ 石川有香「語連鎖分析による学習者グループ特性の探索—学習者の習熟度と言語的文化的要因の交差—」『統計数理研究所共同研究レポート 297 言語テキストの統計的分析』、査読無、2013年03月、pp.31-55.
- ⑩ Yuka Ishikawa. *Recurrent Word Clusters Used by Asian Learners—A Statistical Study of Differences—*. *Learner Corpus Studies in Asia and the World*. 2013年03月、査読有、第1巻、pp.67-76.
- ⑪ Yuka Ishikawa. *Gender Differences in Request – A Statistical Analysis of American English in the NICT JLE*

Corpus. *International Journal of Humanities and Management Sciences*. 2013年01月、査読有、第1巻 pp.57-62.

- ⑫ Yuka Ishikawa. Gender-discriminatory Language and Gender-stereotyped Images in Japanese Junior High School English Textbooks *The 32nd Thailand TESOL International Conference Proceedings 2012 "Teacher Collaboration: Shaping the Classroom of the Future."* (ThaiTESOL)、2012年12月、査読有、pp.126-135.

[学会発表・講演] (計28件)

- ① Yuka Ishikawa. "A Corpus Study on English Registers." Malaysia International Conference on Foreign Languages. 2010年12月1日, University of Putra Malaysia.
- ② Yuka Ishikawa. "What Women Say and Don't Say." The First International Linguistic Conference in Warsaw. 2010年10月20日, Higher School of Linguistics in Warsaw.
- ③ Yuka Ishikawa. "English Job Titles Seen in Major Registers: Corpus-Based Approach." ICTATLL 6th International Conference 2010. 2010年9月22日, 京都キャンパスプラザ.
- ④ 石川有香. 「初年次教育におけるEGSP教材一言語アセスメントの観点からの分析」全国英語教育学会、2010年8月8日、関西大学.
- ⑤ 石川有香. 「映画に見るジェンダー」映画英語教育学会2010年度東海支部大会 特別講演会講師、2010年8月1日、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜駅サテライト教室.
- ⑥ 石川有香. 「東海圏の工業大学における初年次英語教育の現状と課題」中部地区英語教育学会、2010年6月26日、石川県立大学.
- ⑦ 石川有香. 「性を明示する語の使用：日本語コーパスからの調査」2010年度日本女性学会大会、2010年6月20日、ドーンセンター.
- ⑧ 石川有香. 「大学英語のカリキュラムの構築と課題」(茨城大学工学部FD研修会、講演会講師)、2011年12月16日、茨木大学.
- ⑨ 石川有香他共同、「多文化共生社会における大学英語教育と言語アセスメント」大学英語教育学会(JACET)第49回全国大会、2010年9月7日—9日、宮城大学.
- ⑩ 石川有香. 「名工大の英語教育：現状と課題」工業大学における英語教育の展望：東海圏からの発信 (科研シンポジウム2011)、2011年3月23日、名古屋工業大学.
- ⑪ Yuka Ishikawa. "Stereotypes of English Speaking Style." The 9th Asia TEFL International Conference. 2011年7月27日、Hotel Seoul KyoYuk MunHwa HoeKwan, Korea.
- ⑫ 石川有香. 「大学初年次における準専門語彙の理解度」第37回全国英語教育学会山形研究大会、2011年8月20日-21日、山形大学小白川キャンパス.
- ⑬ Yuka Ishikawa. "English Education and Culture—Developing Cross-Cultural Communication Competence—" JACET 50th Memorial International Convention, 2011年8月31日—9月2日、西南学院大学.
- ⑭ Yuka Ishikawa. "Language Assessment and English Education." JACET 50th Memorial International Convention, 2011年8月31日—9月2日、西南学院大学.
- ⑮ Yuka Ishikawa. "Bridging the gap between General English and Academic English" ICTATLL 7th International Conference, (Corpora and Language Technologies in Teaching, Learning and Research), 2011年9月19日—21日, Khon Kaen, Thailand.
- ⑯ 石川有香. 「工学系ESP教育に向けた準専門語彙の辞書開発」外国語教育メディア学会(LET) 第78回 (2011年度秋期) 中部支部研究大会、2011年11月26日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC).
- ⑰ 石川有香. 「工学系ESP語彙の指導CALL教材の開発」JACET英語語彙研究会第8回大会、2011年12月10日、Reitaku University Tokyo Research Center.
- ⑱ Yuka Ishikawa. "A Corpus-based Research on Thanks in British Dialogue" 2011 International Conference on Languages, Literature and Linguistics. , 2011年12月28日, Holiday Inn Bur Dubai.
- ⑲ Yuka Ishikawa. "Gender Stereotypes Seen in English Textbooks in Japan" Thailand TESOL Conference. , 2012年1月27日, Imperial Queen's Park Hotel. 「会話における謝辞表現と話し手の属性」言語研究と統計2011、(統計数理研究所言語系共同研究グループ)、2012年3月7日—8日、統計数理研究所.
- ⑳ Yuka Ishikawa. "Who says "Thank you"? A corpus-based study of formulaic expressions in the British National Corpus" FLaRN 5 (5th Conference of Formulaic Language Research Network), Tilburg University, 2012年3月28日-31

- 日.
- ②① 石川有香、「大学生英語学習者の個別学習活動を促進する要因の考察」全国英語教育学会第38回愛知研究大会、愛知学院大学、2012年8月4日—5日、(プロシーディング)『全国英語教育学会愛知研究大会予稿集』、pp.62-63.
- ②② Yuka Ishikawa 他共同、「Developing a Checklist for Language Assessment of Teaching Materials: English as an International Auxiliary Language in the Expanding Circle」JACET 51st Conference, 愛知県立大学、2012年8月31日—9月2日、(プロシーディング) *JACET 51th International Convention Book*, p.111-112.
- ②③ Yuka Ishikawa. "Expressions of appreciation in English as a global language: "Thank you" in Japanese English." Languages in the Globalised World (LGW) Conference, 2012年9月6日、Leeds Metropolitan University.
- ②④ 石川有香、「話し手要因とテキストの言語特徴の関係」計量的言語研究の諸相、2012年9月19日、北海道大学メディア・コミュニケーション研究院(招待講演)。
- ②⑤ Yuka Ishikawa. "Gender Differences in Language." ISAET 2012 International Conference, 2012年12月30日、(招待講演)、Grand Seasons Hotel, Kuala Lumpur.
- ②⑥ Yuka Ishikawa. "Gender Differences in Request – A Statistical Analysis of American English in the NICT JLE Corpus." ISAET 2012 International Conference, 2012年12月30日、Grand Seasons Hotel, Kuala Lumpur.
- ②⑦ Yuka Ishikawa. "Recurrent Word Clusters Used by Asian Learners." LCSAW2013, 2013年3月23-24日、神戸大学.
- ②⑧ 石川有香、「書き手の特性を表す3語連鎖と4語連鎖」言語研究と統計 2013、2013年3月27-28日、統計数理研究所.

[図書] (計9件)

- ① Yuka Ishikawa 他共著, George Weir 他編、*Corpus, ICT, and Language Education*. University of Strathclyde Publishing, 2010年9月.
- ② 石川有香他共編著、『英語教育学大系3: 英語教育と文化』、大修館書店、2010年11月.
- ③ 石川有香他共著(石川慎一郎他共編)、『言語研究のための統計入門』、くろしお出版、2010年12月.
- ④ 石川有香他共著、『連想バブルで覚える

- ポキャブラリー』、英潮社フェニックス、2011年9月(大学用英語教科書)。
- ⑤ Yuka Ishikawa 他共著, George Weir 他編、*Corpora and Language Technologies in Teaching, Learning and Research*. University of Strathclyde Publishing, 2011年9月.
- ⑥ 石川有香他共同訳・執筆『市民ケーン名作映画完全セリフ集』(井土康仁監修)、2011年、スクリーンプレイ出版(一般英語教科書)
- ⑦ 石川有香他共編著、『英字新聞で学ぶ異文化理解: Dai Iy Yomi uri の記事から』2012年、英宝社
- ⑧ 石川有香他項目執筆『プログレッシブ英和辞典(第5版)』投野由紀夫他編集、小学館、2012年(英和辞書)。
- ⑨ 石川有香他共著『English Expression I』2013年、Screenplay 社、(高校検定教科書)。

[その他]

報告書

石川有香編著、『工業大学における英語教育の展望—東海圏からの発信—』2011年3月23日発行、共著者: 小山由紀江(名古屋工業大学)、石川有香(名古屋工業大学)、浅井淳(大同大学)、伊東田恵(豊田工業大学)、印南洋(豊橋技術科学大学)、野口ジュディ(武庫川女子大学)、石原由貴(東京工業大学)

URL :

報告書

<http://language.sakura.ne.jp/y/doc/kaken2010.pdf>

その他情報 <http://language.sakura.ne.jp/y/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

石川有香 (ISHIKAWA YUKA)
名古屋工業大学・工学研究科・教授
研究者番号: 40341226

(3)連携研究者

小山由紀江 (KOYAMA YUKIE)
名古屋工業大学・工学研究科・教授
研究者番号: 20293251

カレン ブライアン (CULLEN BRIAN)
名古屋工業大学・工学研究科・准教授
研究者番号: 50324471

浅井淳 (ASAI ATSUSHI)
大同大学・情報学部・准教授
研究者番号: 00350976

伊東田恵 (ITO TAE)
豊田工業大学・工学部・准教授
研究者番号：40319372